

実データを用いた「統計的な推測」の指導

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（数学）

氏名 江口 喬信

平成 29・30・31 年の学習指導要領改訂に伴い、算数・数学科では、統計分野の内容の前倒し、充実化が行われ、統計教育は重要視されている。高等学校においても、内容の移行によって、以前より数学 B 「統計的な推測」を扱う学校が増える。そこで、生徒が数学 B 「統計的な推測」の知識に有用感を感じることを目標にし、実践を行った。

有用感を感じることで、日常における事象との関連を実感することは密接な関係にあると考えている。よって、実践では、日常における事象との関連を生徒に強く実感させるために、実データを用いて分析する活動を行うこととした。また、分析した内容を発表する活動を行うことで、内容への理解をより深めようと試みた。

結果として、振り返りの記述、授業後のアンケートを分析したところ、実データを用いた活動は「統計的な推測」の知識の有用感を実感することにある程度の効果があるが、実際に生徒が自らその知識を活用できるまでには至っていないと結論付けた。